

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	苅田町立白川小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	13
児童数	23	27	25	24	24	40	0	163	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「確かな学力を身につけた子どもの育成」 ～個に応じたきめ細かな指導の工夫を通して～</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・3年生...算数 系統性の強い教科、基礎・基本の確実な定着を図るため。 ・6年生...理科 これまでの研究成果と実態調査の結果から、教科の枠を広げ研究に取り組むため。

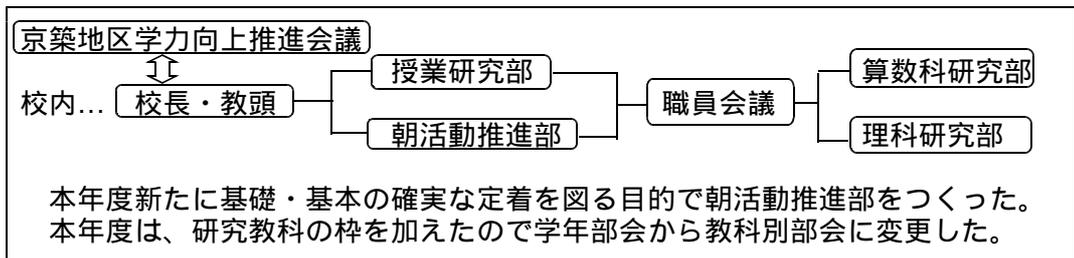
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 一人一人に確かな力をつける学習指導の工夫 ～算数科「数と計算」の領域を通して～</p> <p>仮説 算数科の学習において、子ども自らが問いをもつような学習材や提示の仕方、子どもの学習状況を把握する手だてを工夫し、学習状況に応じた補充的な学習や発展的な学習を計画的に展開すれば、子どもは確かな力を身につけ意欲的に課題解決に取り組むだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自ら問題意識をもつような教材や提示の工夫 ・子どもたちの学習状況を的確に把握するための工夫 ・基礎・基本を大切にしながら繰り返し指導を位置づけた単元構成の工夫
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 算数科「量と測定」の領域を通して 理 科「物質とエネルギー」の領域を通して</p> <p>仮説 算数科・理科の学習において、次のような個に応じたきめ細かな指導を工夫すれば、一人一人が確かな学力を身につけ意欲的に課題解決に取り組む子どもが育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展的・補充的な学習の教材開発及び単元構成の工夫 ・学習形態の工夫(少人数指導の工夫) ・子どもの学習状況を的確に把握するための工夫 <p>* 本年度は、算数科に加え理科を研究の対象に加えたため。</p>
--------	--

平成16年度	テーマ	算数科「数と計算」「量と測定」の領域を通して 理科「物質とエネルギー」の領域を通して
	仮説	算数科・理科の学習において、次のような個に応じたきめ細かな指導を工夫すれば、一人一人が確かな学力を身につけ意欲的に課題解決に取り組む子どもが育つであろう。
	研究の内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発展的・補足的な学習の教材開発及び単元構成の工夫 ・ 学習形態の工夫（少人数指導の工夫） ・ 子どもの学習状況を的確に把握するための工夫

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

平成14年2月と平成15年10月実施の標準学力検査の正答率を比較しました。
(算数科実施...学年は現在の学年、2月・10月は同一母体正答率を示す)

学年	2年正答率	3年正答率	4年正答率	5年正答率	6年正答率
平成14年2月	76%	78%	73%	65%	61%
平成15年10月	87%	82%	73%	68%	63%

- 前学年から半年たった10月実施のデータからは、どの学年も前学年の学習内容の定着が図られていることがわかる。10月実施の領域別偏差値では、2・3年生の「数と計算」の領域において全国標準偏差値を大きく上回っている結果が見られた。この要因としては、指導体制の工夫として年間を通してTT及び少人数授業の学習を実施、指導方法の工夫として問題解決的な学習を重視した授業を多く実施したことが有効にはたらいたと考えることができる。
- 第3学年で文部科学省の学習に関する意識調査(9月)実施と(12月)実施の意識調査を比較した。
- (複数教員による指導を楽しみにしている)(コース別で自力解決しようとしている)

3年生	複数教員による指導を楽しみにしている				コース別で自力解決しようとしている			
	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	まったくあてはまらない	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	まったくあてはまらない
9月	40%	36%	24%	0%	20%	16%	56%	8%
12月	52%	36%	12%	0%	40%	36%	16%	8%

- このデータからは、2学期以降に実施した発展的・補足的な学習を単元に取り入れた少人数授業の学習の指導方法及び、3人の複数教員による指導体制が子ども一人一人に対応したきめ細かな指導を可能にしたと考えることができる。また、このことは、子どもたちの自力解決の意欲を高め、自分の課題やより高い目標に向かって適切にコース決定が行われたことを意味していると考えられる。これらの傾向は、他の学年においても同様のデータが示されている。
- 子どもたち一人一人に応じたきめ細かな指導をめざして、教材開発や子どもの実態把握を含め情報交換を進んで行き、教職員の意識改革につながっている。
- 地域の保護者による「読み聞かせサークル」が国語の時間や朝の活動の中に定着し、また、朝活動推進委員会によるチャレンジプリントの充実が図られた。

2. 今後の課題

- ・学力実態調査と生活実態調査及び指導方法工夫に関する意識調査の分析、考察を通して来年度の方向性をさぐる。
- ・発展的・補足的な学習の教材の開発及び指導体制の工夫を充実を図る。
- ・子どもたちの学習状況を的確に把握するための工夫を充実を図る。
- ・保護者へ啓発活動の充実を図る（少人数授業の学習の公開及び意識調査の実施）
- ・保護者との連携を図り、子どもの学習支援を充実させる（家庭学習等）
- ・研修計画を充実させ、部会や教師間の打ち合わせなど時間の確保を図り、連携を密にして単元・教材開発に努める。
- ・研究成果の整理及び成果の普及に努める。

学力等把握のための学校としての取組

- ・定期的な学力調査の実施
 - 平成 15 年 10 月 学研式標準学力検査実施（2・3・4・5・6年…国語・算数）
 - 平成 15 年 11 月 学研式標準学力検査実施（4・5年…理科）
 - 平成 16 年 2 月 福岡県学力実態調査予定（6年…算数・理科）
 - 平成 16 年 3 月 学研式標準学力検査予定（全学年…算数 3・4・5年…理科）
- ・指導方法工夫改善に関する実態調査
 - 平成 15 年 9 月（全学年） 12 月（全学年） 3 月（予定…全学年）
- ・生活実態調査
 - 平成 15 年 6 月、平成 16 年 2 月（全学年）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成 15 年 6 月…発展・補足的な学習（第 2 学年算数）保護者参観にて公開
平成 15 年 7 月…フロンティアティーチャー研修会（第 1 回）
平成 15 年 7 月…学校紹介パンフレット作成
平成 15 年 12 月…フロンティアティーチャー研修会（第 2 回）
平成 15 年 12 月…京築学力向上実践事例（第 3 学年重さ 発展・補充教材）
平成 16 年 1 月…学力向上実践事例（第 6 学年水溶液 発展・補充教材）
平成 16 年 1 月 23 日（金）
学力向上フロンティア実践交流会 授業公開 1・2・5 年（算数）4 年（理科）
実践発表 3 年（算数）6 年（理科）
本年度実施 他校（6 校）学力向上フロンティア実践交流会参加

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15 年度からの新規校 14 年度からの継続校

【学校規模】 6 学級以下 7～12 学級
 13～18 学級 19～24 学級
 25 学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・T による指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無